令和４年度第４回千葉市政策評価部会　議事要旨

１　日　　時　　令和５年２月１３日（月）１３時３０分～１５時００分

２　場　　所　　千葉市中央コミュニティセンター　１０階　「１０１会議室」

３　参 加 者　　≪委員≫７名

浅野　幸子委員、石丸　美奈委員、岩崎　久美子委員、菊地　端夫委員、

鈴木　雅之委員、林　曉甫委員、松永　哲也委員（五十音順）

≪事務局≫４名

堺 総合政策部長、濤岡 政策企画課長、平野 政策企画課主査、

松崎 政策企画課主査

４　議　　題

（１）第３回政策評価部会における委員意見の対応の方向性

（２）答申（案）について

（３）その他

５　議事概要

（１）第３回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について

第３回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について、事務局から説明を行った。

（２）答申（案）について

答申（案）について、事務局から説明を行った。

（３）その他

今後のスケジュールについて事務局より説明を行った。

６　会議経過

～以下、議事要旨～

議題（１）第３回政策評価部会における委員意見の対応の方向性	
（事務局）第３回政策評価部会における委員意見の対応の方向性について、資料１－１及び資料１－２をもとに説明を行った。	
＜意見交換＞	
松永委員	市で行った満足度、定住意向のアンケートに関連して、ちばぎん総研においても「このまちが好きである（愛着度）」、「このまちに長く住み続けたいと思う（居住継続意向）」という項目について千葉県内の市民を対象に行ったアンケートがあるので参考に紹介します。 県内 54 市町村、県民 3,000 人を対象に行い、千葉市ではおおよそ 400 人台の回答を得ています。結果としては、市のアンケート同様、このまちが好き、住み続けたいという方が

	多くなっていますが、回答の割合を県内市町村別に並べますと、千葉市は、54 市町村のうち一定の回答数を満たした 42 市町村の集計で、愛着度は 18 番目、居住継続意向は 17 番目と真ん中より少し上の結果となっています。 愛着度に関しては、上位から流山市、旭市、浦安市、成田市、印西市と続き、居住継続意向に関しては、上位から流山市、四街道市、袖ヶ浦市、旭市、成田市となっています。
総合政策部長	以前にも他市との同様の調査の比較を検討してみましたが、設問にばらつきがあり単純な比較が難しかったので、こちらの結果は非常に貴重だと思いつつ、千葉市がまだまだというところも感じたところです。参考までに、こちらの調査項目について回答の理由などは取っているものでしょうか。
松永委員	「住み続けたい」や「まちが好き」についてはその設問項目までとなりますが、その他、全部で 50 問程度の設問があり、分野としては子育てや教育、医療、福祉、住環境、就業環境、文化、環境など全部で 10 分野について、それぞれが 5 問程度の設問となっています。 千葉市のアンケート結果の傾向を見ると、例えば上下水道や交通基盤が整ってるといった都市基盤の回答は割と高い一方、他の都市に比べて、観光面で自慢ができることがある、文化面で自慢できることがある、教育環境が整ってるというところがさほど高くないという傾向があります。また、子育てについては、プラスとなっていますが「母になるなら、流山市。」とＰＲする流山市などと比べてはまだまだとなっています。
総合政策部長	今後の取り組みの参考にさせていただきます。ありがとうございます。
菊地部会長	各区居住区の分析について、全体の平均から 5 ポイント以上の差があるものについてそれぞれ網かけをしたということで、興味深く拝見しました。ｔ検定などを行うことによって有意差があるのか分かると思いますが、おそらくこの網かけの部分とほとんど変わらないのではないかと思います。 川辺がある、森林が多いということに関しては、当然各区の自然環境に影響するので行政の取組みに関係なくこのような差が出てくるものだと思いますが、一方、身近な病院や診療所が充実しているということについて、差が表れない結果となりました。 平均に対して 5 ポイント以上プラスもマイナスも差が表れないということは、市内どの区に住んでいても平均的に身近な病院、診療所が充実しており医療アクセスというものが保障されるという意味で、この市民の実感に差がでないこと自体が施策の成果としてプラスと捉えられると思います。差が出なかったことについても評価をするうえで重要な情報になり得ると思います。
政策企画課長	医療に関して、特にアクセス性については、地域によって、それほど差が無く、平均的に評価されたところです。先ほどのちばぎん総研のアンケートの中でも、医療に関して千葉市は評価ポイントが高い項目になっていますので、一定の評価をいただけたという認識です。
議題（２）答申（案）について	
（事務局）答申（案）について、資料２をもとに説明を行った。	
＜意見交換＞	
鈴木委員	コロナに関する記載について、これまでの部会を通して、コロナの影響をどう整理すればいいかといった話が多くあったと思います。表面的には表れていなくても皆さんが同じ気持ちで議論していたと思います。 分野共通事項において、アンケートへの評価だけではなく、行政活動の改善に関わる意見においても、行政活動の今後の取組みについてウィズコロナを見据えて進めるべきであ

	るといったことを入れたらよいと思いました。
石丸委員	鈴木委員から、行政活動実績評価のところでコロナ禍の影響によるものかそうでないのかよく分析をして対策を進めていった方がよいという意見がでていましたので、この意見を踏まえて答申を整理する方法もあるかと思いました。 3ページ目「2行政活動の改善に関する意見」について、複合的な課題に対しては総花的、縦割り的になりやすいことから、庁内の連携強化や分野横断的な課題の解決といった意見をしたところでしたが、先ほどの流山市の「母になるなら、流山市。」のように、みなさんが千葉市にこういう市になってほしいと思うキャッチフレーズのようなものも立てつつ、そこから事業が枝分かれしていくかたちが見えるといいなと思っております。
総合政策部長	コロナの影響にかかる要因分析というのは、ご意見いただいたなかで対応を図ってきましたが、今後、コロナとの共存を踏まえどう取り組むかという将来的な部分については、確かに記述がないところだと思います。コロナの影響についての分析と、今後どうしていくかということはつながっていますので、記載場所を工夫し対応いたします。 石丸委員の意見につきましては、おそらくキャッチフレーズそのものということでなく、まちづくりの焦点、市として重点的に取り組むことを明確化して取り組んで欲しいというご意見ではないかと受け止めました。市では、来年度、総合政策局の事業として人口減少の抑制に向けて、調査分析やＰＲについて具体的に取り組んでいくところです。そのなかで、どういうアピールが市民の方あるいは市外の方に訴求するかというところを検討してまいりますので、具体的な取組みと合わせ、しっかりと受けとめさせていただきたいと思います。
松永委員	語尾の書き方が、「検討すること」とあるものや「記述すること」とあるものがあり、表現に濃淡があるなという気がしています。 例えば、方向性３－１（１）で「文化芸術の評価にあたっては、様々な年代への鑑賞等の機会の提供についても記述すること」とありますが、委員の方の気持ちとしては単に記述をして欲しいということではなく、鑑賞等の機会を設けることについて検討して欲しいということだと思います。同様に、方向性４－１（３）で「高齢者の外出支援の観点からも市民住宅のバリアフリー化の重要性について記述すること」とあることについて、単に重要性について記述するだけではなくて、重要性があるので、対策が可能かどうか検討して欲しいということだと思います。 市として、積極的に対応していくことが難しいものは「記述すること」にとどめてあるのかなという気もしましたが、検討が可能なものについては記述という表現ではなく、変えられる部分については「検討すること」に変えた方が、委員の気持ちが伝わってよいのではないかと推察をします。 そのなかで、私自身が述べたことについて修正をお願いしたいところがあります。 方向性１－１（１）「コロナ禍の影響を受け利用者の減少した施設等で、今後の感染症に係る動向に関する記述を見直すこと。」について、気持ちとしては感染症が収束しないケースも踏まえて、今後の運用方法を検討して欲しいというものであるので、記載の表現について検討をお願いします。 もう１点、方向性４－１（１）「消防団活動について、市が消防団に求めることや消防団機能を整理する必要性についても記述すること。」について、評価シートへの記述だけではなく、気持ちとしては、消防団とその機能のすり合わせを行ってほしい、すり合わせを行うことを検討してほしいというものであるので、こちらも検討をお願いします。

総合政策部長	語尾の記載については、我々の受けとめの弱い強いでは全くございません。諮問事項が政策評価の原案に対するものであるため、評価の原案に直接関わるもの、直接政策評価シートの修正に直結するような内容のご指摘については、政策評価シートに関するご意見として、このような観点から記述をしてくださいといったかたちで整理をさせていただいたところです。また、行政活動の改善については、直接は評価シートに反映させることは難しいけれども今後このように取り組んで欲しいというようなご意見をまとめさせていただいたものです。 その上で、記述することがその後の行政活動の改善に関するところともつながっているというのは確かにご指摘のとおりです。再度、記載の表現について見直しをいたします。「こういう状況だからこのようなことが必要である。」と改善に向けた課題認識をシートの中で記述するということは、当然我々として今後どのように取り組めばよいのか庁内にフィードバックし、改善を図っていくことにつながっていますので、この評価において記述して終わりということは決して無いと申し上げます。
政策企画課長	公園につきまして、感染症が収束しないことも見据えた公園のあり方についてのご意見ということで記載を検討させていただきます。消防団につきましても、次の実施計画において、社会情勢に合った消防団のあり方などを検討していますので、そちらも踏まえ記載を見直したいと考えております。
菊地部会長	石丸委員から、Ｗｅｂ会議上のコメントで方向性２－１（１）「がん検診受診率について、全国的に低下傾向にあるなか千葉市で上昇している要因について分析すること。」の意見について、石丸委員としては、要因の分析だけではなく、これからも受診率を上昇させる取組みを続けていくことといった趣旨であると意見がありましたので、ご検討いただければと思います。
林委員	方向性３の豊かな心が育ち新たな価値が生まれるまちへのところ、「文化芸術の評価にあたっては、様々な年代の鑑賞等の機会の提供についても記述すること。」について、評価シートにどういうことを記載していたかなどを振り返りながら確認をしていましたが、鑑賞の機会自体は千葉市としても相当実施していると思います。部会の議論を重ねていく中で、それぞれの施策がばらばらではなくつながりあって効果をあげていくことが重要であるといったことがでていたかと思います。鑑賞以外で、例えば市民参加や作品を通じた対話など、市民生活とのつながりを踏まえないと、いつまでも美術の鑑賞が豊かな心の形成につながらないのかなと思います。鑑賞等だけではないということについて、事務局だけでなく、委員皆さんの意見を聞かせていただければと思います。
浅野委員	コロナによって顕在化した問題に新たに取り組んだ部分もあると思います。例えば感染症対策そのものもそうですし、貧困の問題や教育分野でのデジタル化推進など、課題が顕在化して新たに生まれた恒常的な取組みをさらに発展させていく必要があるような課題についてもしっかり盛り込み、評価の中に活かしていただきたいです。 それから、人口減少や高齢化が進む中においては、外国籍の方やＬＧＢＴの方など、多様な人が力を発揮できるようにする必要があると思います。それがないと、若い人たちが生きづらさを抱えたままになってしまいます。 孤立させない、つながるという側面から、それぞれの事業の中で、市民のエンパワーメント、行政と市民の協働、立場の異なる人たちのつながりづくりが必要だと思います。政策の領域を超えていくには色々と工夫が必要で難しいかもしれませんが、人と人とのつながりで事業もつながりが生まれることもあり得ると思います。

	例えば美術館において、重度の障害のある人やお出かけが難しい人、乳児を抱えている人などは美術鑑賞の機会を作りづらいと思います。そういうところで機会づくりを行ったりボランティアを募るなど、様々なかたちで人がつながり、孤立を防いでいくことが人々の力を引き出していったり、政策を別の次元に連れて行ってくれる側面もあると思います。 また、つながるという受け身ではなく、なにかそこでのエンパワーメントやつながりを仕掛けていくような積極的な姿勢が打ち出せるといいなと思いました。新しいものを生み出すわくわく感みたいなことが少し欠けているような気もしたので、そんな観点も含めて発言させていただきました。
岩崎委員	市の方々には私たちの意見を酌み取ってご対応いただき有難く思います。文章としてご検討いただきたいところを３点ほどお伝えします。 １点目は、「市におかれましては、政策評価の結果を十分に生かしつつ市民が安心して暮らしを楽しみ、活躍できる、未来志向のまちづくりに精力的に取り組まれるよう期待します」と書かれているところの「安心して暮らしを楽しみ」の部分です。市民の中には、経済的状況が充足されていない、あるいはその他の心理的なものも含めて十分でなく、安心して暮らしを楽しめない状況の方がいるのではないかと思います。安心して暮らせる、生活を楽しむ、そして社会で活躍できることにはそれぞれ段階があるような気がしますので、ここでは「市民が安心して暮らせ、その生活を楽しみ、そして社会で活躍できる、未来志向のまちづくりに…」というように、３つの段階を分けて記述いただいた方が良いと思います。 ２点目は、方向性１の「豊かな緑と水辺を活かした自然とともに生きるまちへ」のところの、２（1）「身近な公園」という表現が気になりました。身近という言葉には心理的身近と、物理的身近という二つの意味が含まれていると思います。「市民が利用する公園について」などと修正し、「身近な」という限定的な書き方をしなくてもいいのではないかと思います。趣旨は公園利用の実態及び市民ニーズに応じた公園づくりを行うことにありますので、心理的・物理的に身近である公園に限定して考えるよりは、千葉市民が利用できるあらゆる公園について、市民ニーズに対応するという言葉にした方がより適切ではないかと思いました。 ３点目は、方向性３－１（1）についてです。松永委員と同じく「記述すること」という表現は私も気になりました。、ここは、本質的には「文化芸術の振興にあたっては様々な年代への機会の提供について評価をすること」といった趣旨ではないかと思います。記述することではなく機会の提供が重要だということを強調していただきたいということです。また、林委員の意見のとおり、鑑賞等と入れることによって意味が狭まってしまうので、市民の参加の例示も一考かと思いますが、「様々な年代への機会の提供について」といった言葉にしていただくのも良いかと思いました。
総合政策部長	浅野委員のご意見について、例えばＩＣＴ教育やリモートワークなど、様々なものがコロナへの対応を図るなかで今につながっているところがあります。ただ、政策評価においては、分野別の計画事業に沿っての分析になっておりますので、コロナへの対応を通じた取組みについてはあまり打ち出せていないところでした。 答申で表現する場合、分野共通の部分で今後の行政活動の改善に位置付けるか、または、前文の最後の部分で、コロナを通じて生まれてきたものをしっかりと今後に活かすなどといった表現を検討させていただければと考えております。 また、人々のエンパワーメント、つながりの強化という部分につきましても、同様に答

	申における分野共通もしくは前文の部分での表現を検討させていただきます。 岩崎委員のご意見について、暮らしをまず安定させて、そのうえで暮らしを楽しむ段階があり、活躍ができるということは、委員のご指摘のとおりかと思いますので、修正いたします。また、「身近な」という言葉が多義的であるというところは私どもも感じているところですので、適切な表現を検討したいと思います。 林委員からも先ほど指摘いただいた件について、鑑賞だけでなく例えば体験や地域の活動であるとか、さらには他の分野との連携などについて、具体的に記載した方がいいのか、包括的にまとめた方がいいのか、改めて文章を検討させていただきます。また、「記述すること」という表現につきましても合わせて宿題とさせていただければと思います。
菊地部会長	コロナに関して、鈴木委員をはじめ複数の委員から指摘ありましたが、1 ページ目の下から 2 段落目、全体の総括的な評価に関わる部分について、こちらは新基本計画全体の総括に関わる評価だと思います。過去 10 年間のうち、この 3 年間はコロナ禍での行政運営となりましたけれども、その中でも全体としては概ね順調に進捗をしてきたという評価をしております。コロナ禍での行政運営というのは、おそらく現場の感覚としては、保健所も含めぎりぎりのなかで様々な対応があったかと思います。それでもなんとか苦しいなかで行政活動を継続したことによって、こういった評価ができるのではないかと思います。この苦労をしのびつつ、時代状況のようなものを踏まえた評価を入れても良いのではというのが私の委員としての意見です。 過去の評価に対する部分においてコロナについて言及し、また、これからの話として、コロナがもたらした課題を今後につなげていく新たなチャンスといったものを記載することも良いのではないかと思います。 加えて、3 ページ目の分野共通の（1）政策評価の方法　ウ「政策の評価にあたっては、事業の提供主体である担い手による評価を踏まえること。」について、この「事業の提供主体である担い手」というのは行政以外のことを念頭に置いていると思いますが、第三者が読んだときに事業の提供主体は行政ではないのかと誤った解釈をされてしまう可能性があると思いました。協働のパートナーの定性的な評価の方法もあるのではという指摘であったと思いますので、「担い手による評価」ということが行政を指しているわけではないということを明確にするために表現を工夫した方が良いと思います。
総合政策部長	コロナの件につきましてはご指摘のとおり、これまでの部分と、それをつなぐ現在とその次の時点の課題ということで、文章のなかで読めるように検討してまいりたいと思います。 それと、3 ページの分野共通 1（1）につきましては、直接は鈴木委員からのご意見で、子育て支援の関係で例えばＮＰＯや指定管理者など、広く言えば行政活動の一部として多様な担い手がいるその現場での評価というものを吸い上げた方が良いのではというご意見でした。確かに一読すると、担い手が何を示すのか伝わってこないというのもご指摘のとおりかと思っておりますので表現を検討させていただきます。
菊地部会長	答申（案）のまとめ方については、事務局から提案ございますでしょうか。
政策企画課長	今回いただきましたご意見については、市としての対応の考え方を取りまとめ、部会長と詳細を詰めさせていただき、部会としての結論とさせていただきたいと存じますがいかがでしょうか。
菊地部会長	それでは事務局の提案のとおり、部会長一任というかたちでよろしいでしょうか。
一同	異議なし

議題（３）その他
（事務局）今後のスケジュール及び議事録の確定方法について、事務局より説明した。
―閉会―